小児科

部長　杉田恵美

１．部門目標

千葉県保健医療計画において示された千葉市の地域小児科センターとしての役割を担うべく、小児救急拠点病院として充実を図り、小児総合診療の幅を拡大し地域の小児医療に貢献します。１）内因系・外因系疾患を問わず、常時小児救急患者を受け入れます。２）最善の医療のため多職種によるチーム医療を実践します。３)健診（院内外）および予防接種の実施など小児保健診療へ参加します。４）1 次医療機関、3 次医療機関、消防局、保健所、児童相談所、千葉市医師会など他の関連機関と円滑な連携をし、地域医療を支援します。５）地域の小児食物アレルギー診療の基盤となるよう、食物経口負荷試験を実施していく。６）小児科専門研修基幹施設として小児科専攻医を指導・育成します。７）公開カンファレンスを開催して地域の小児医療の質向上に貢献します。８）千葉大学病院総合診療科専攻医、初期研修医、千葉大学医学部学生などの研修施設としても充実を図ります。９）小児の新型コロナウイルス感染症に対する診療体制を整備します。

２．勤務体制とスタッフ

①勤務体制

常時小児科医が小児救急患者を受け入れる体制になっています。夜間、土、日、祝日は、日勤・夜勤の小児科医が割り当てられ、常時小児科医が在院する体制となっています。日中は救急当番の小児科医が迅速に対応をしています。17 時から 21 時まで（2021 年 8 月までは 22 時まで実施）の千葉市夜間応急診療を含む救急外来において、小児専従看護師による院内トリアージにより救急外来の適正化を図っています。緊急性が高い患者は、平日はシフト勤務医師が対応し、日・祝日は小児科救急外来担当医師が対応します。平成 30 年 2 月より千葉市夜間応急診療の前準夜帯を週 1 回月曜日（第 1 月曜日を除く）に、平成 31 年 2 月より千葉市夜間応急診療の深夜帯を週 1 回水曜日に小児科専攻医・千葉大総合診療科専攻医が担当しています。

②スタッフ

令和 3 年 4 月 1 日時点

院長	寺井　勝
副院長・小児科統括部長	金澤　正樹
部長	立野　滋
感染症内科部長	阿部　克昭
部長	高田　展行
部長	杉田　恵美
主任医長	加藤　いづみ
主任医長	森山　陽子
主任医長	大川　哲平
主任医長	吉田　未識
医長	小玉　隆裕
医長	鋪野　歩
医長	栗原　恵理佳
医師	近藤　優帆
専攻医	大関　塁
専攻医	奥田　裕也
専攻医	吉野　忠怨
専攻医	廣瀬　健陽

専攻医　　多胡　孟祐
専攻医　　中川　良太
専攻医　　芝入　綾香
専攻医　　畠野　真帆
専攻医　　小島　愉生利
専攻医　　石丸　翔一

令和３年３月に寺中さやか医師が、千葉市立青葉病院　泌尿器科に異動。中島　聡医師が、国立成育医療研究センター　集中治療科に異動。他に、小児科専攻医が小児科専門研修のプログラムに沿い、異動があった。

③外来（令和３年４月１日時点）
専門外来
月曜：地引利昭・高田展行（循環器）、千葉大医師（内分泌）、大野幸恵（小児外科）
火曜：千葉大医師（神経）、阿部克昭（感染症）、寺井勝・立野滋（循環器）、光永　哲也（小児外科）
水曜：田邊雄三・高梨潤一（神経）
木曜：寺井　勝（循環器）、亀ヶ谷真琴（整形外科）、橋本祐至（神経）
　　金澤正樹（代謝・消化器）
金曜：寺井　勝・立野滋（循環器）、加藤いづみ（アレルギー）、光永　哲也（小児外科）
小児一般外来
　石和田文栄、杉田恵美、森山陽子、小玉隆裕、吉田未識、大川哲平、他

３．診療実績
外来延べ患者数：18,070 人（初診：4,608 人、再診：13,462 人）、紹介患者数：1,832 人
新規入院患者数

新規入院患者数	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
小児科	2,132	2,272	2,083	2,202	1,461	1,825

救急車搬送受入数

	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
小児科	1,251	1,564	1,724	1,716	1,127	1,566
小児科夜急診	799	727	617	661	188	262
小児科総数	2,050	2,291	2,341	2,357	1,315	1,828

〈主な入院患者の疾患別内訳〉
　2021 年度は初夏から RS ウイルス感染症の流行が久々にみられ、年末年始にはノロウイルス胃腸炎も流行するなど他の感染症患者も増加し、徐々に入院数が戻ってきました。インフルエンザはみられませんでした。
　RS ウイルス感染症による入院は 162 名と過去 3 年間と比較しても最多でした。COVID-19 の小児患者数は 64 名、食物経口負荷試験検査は検査日数を縮小したこともあり 427 件となりました。
　コロナ禍以降、明らかに増えてきた疾患として神経性食思不振症 5 名、意図的な急性薬物中毒 8 名の入院がありました。
４．教育・研修・その他の活動

①教育・研修

当院の小児科専門研修プログラムが日本専門医機構に承認され、基幹型病院として小児科専攻医の専門研修を実施しています。令和3年度本院採用の小児科専攻医は1名でした。

初期研修医延べ16名、小児科専攻医・後期研修医延べ12名、千葉大学病院総合診療科の専攻医1名の小児科研修が実施されました。千葉大学医学部学生7名の小児科実習を行ないました。令和3年度末で千葉市小児科医会と共催している海浜病院公開カンファレンスは275回を迎えました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公開カンファレンスはオンライン形式となり、継続しています。

②その他の活動

千葉市の 4 か月健診、大網白里市の 4 か月健診、学校心疾患二次検診に参加しました。千葉市要保護児童対策地域協議会実務者会議に参加しました。

５．1年間の総括

新型コロナウイルス感染の拡大の影響により、減少がみられていた新規入院患者数、救急車搬送受入数、外来患者延べ数ともに例年近くまで戻ってきました。千葉市夜間応急診療を受診される患児も増加傾向ですが、時間帯は前準夜・準夜と引き続き短縮しております。

2021年度は初夏からRSウイルス感染症の流行が久々にみられ、年末年始にはノロウイルス胃腸炎が流行するなど他の感染症患者も増加したため、徐々に入院数は戻ってきました。

一方でコロナ禍以前より明らかに心身症と考えられる症例が増えており、環境変化やコミュニケーションの不足などの影響が考えられます

小児病棟では新型コロナウイルス感染者の受け入れ病床を引き続き設置して入院を受け入れ、陽性妊婦から出産した新生児への対応、発熱午後外来を設けて予約診察や保健所からの診察依頼への対応を行っております。3月には5歳以上に認められた小児コロナワクチン接種を開始しました。

コロナ禍以降、当院で小児科専攻医・後期研修医を希望する医師の病院説明会や見学の機会が減り、応募者が少なかったこともあり、オンライン説明会を適宜実施したところ、参加があり応募も増えました。

６．今後の目標

新型コロナウイルス感染症の流行当初は、それ以外の感染症が激減した時期もありましたが、徐々に他の感染症や疾患も以前のようにみられ始め、今後はこれまでの感染症と混在している状況で医療の提供を続ける必要があると考えています。

次世代の小児医療を担う医師を育成するため、小児科専門研修施設としてよりいっそうの充実を図り、小児科専攻医・後期研修医の確保、指導につとめます。オンラインでの説明会、勉強会などは引き続き今後もハイブリッドで対応できるように整備していきます。

小児医療において問題となっている移行期医療や社会的養護を要する貧困や虐待などの対応、重症心身障がい児者のケア、発達障害・ 精神・行動・心身医学的な診療に対し、地域の需要に応えられるように整備していきます。

小児科HP：http://www.city.chiba.jp/byoin/kaihin/shinryou_syounika.html
海浜病院リクルートサイト：http://chibacity-kaihinhp-recruit.jp/